

## 破裂脳動脈瘤塞栓術中遠位移動した Coil を回収できなかった 1 例

赤路 和則<sup>1)</sup> 富尾 亮介<sup>1)</sup> 植杉 剛<sup>2)</sup> 美原 貫<sup>1)</sup> 谷崎 義生<sup>1)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門

[症例]65 歳、女性。くも膜下出血で発症。最大径 4mm の右内頸動脈瘤破裂の可能性が高いと考えたが、最大径 3mm の左内頸動脈後交通動脈分岐部瘤破裂の可能性も否定できなかった。右内頸動脈瘤塞栓術後、左内頸動脈瘤塞栓術を施行。先端を 45 度に形状づけした Excelsior SL-10 を左内頸動脈後交通動脈分岐部瘤へ誘導した。GALAXY G3 XSFT 2.5mm x 2.5mm、GALAXY G3 XSFT 1.5mm x 2mm、Axium Prime Helix 1mm x 1mm、Axium Prime Helix 1mm x 1mm を挿入。Excelsior SL-10 抜去時、最後の Axium Prime Helix 1mm x 1mm が瘤から逸脱し、左後大脳動脈分枝の左後頭側頭動脈へ移動した。そこで、右椎骨動脈から左後頭側頭動脈へ Excelsior1018 を誘導した。Excelsior1018 を Coil 遠位への誘導を試みたが、Coil が左後頭側頭動脈の後頭葉分枝起始部を完全に塞ぐように存在したため、Coil 遠位への誘導が困難であった。Gooseneck snare 2mm を用いて Coil 回収を試みたが困難であった。また、Trevor XP 3mm x 20mm を用いて Coil 回収を試みたところ、Coil 回収はできなかったが、左後頭側頭動脈の側頭葉への分枝の描出が良好となったため、終了とした。翌日、軽度の右視野狭窄を認め、頭部 MRI では、左後頭葉に新鮮梗塞を認めた。

[結語]脳動脈瘤塞栓術中、Helical 形状の小さな Coil が瘤から逸脱した場合、遠位の細い枝まで移動し、Coil を回収できないこともあると考えられた。